

令和2年度岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 機関評価評価票

1 運営方針及び重点分野	非常に優れている 人	優れている 2人	妥当 4人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
<p>助言、指摘事項等</p> <ol style="list-style-type: none"> 「晴れの国おかやま生き活きプラン」、「岡山県酪農肉用牛生産近代化計画」等に基づき、また、消費者・生産者・関係団体等から要望課題を募るなど、各方面からのニーズを踏まえ、妥当な運営方針・重点分野を設定しており、畜産研究所の位置付け及び役割は明確となっている。 消費者ニーズに対応し得る畜産物のブランド力強化、環境にも配慮した燃料技術開発、効率的で収益性の高い飼養管理技術等の開発など、今後畜産分野のみならず必須とも言える分野を重点項目としていることは評価できる。取組みに長期間を要するものについては、公設試ならではの役割と考える 生産性の向上については畜産研究所の存在意義そのものであり、特に和牛のおいしさという新たな指標による改良事業で成果があがっていると評価できる。 一方で、消費者ニーズは複雑化しており、ブランド化のターゲットの設定や県民独自のニーズの把握については、消費者ニーズの調査や議論が必要である。消費につなげるためには、岡山の畜産物ならではのブランド力も必要であると考えます。 					
2 組織体制及び人員配置並びに予算配分	非常に優れている 人	優れている 2人	妥当 1人	見直しが必要 3人	全面的見直しが必要 人
<p>助言、指摘事項等</p> <ol style="list-style-type: none"> 限られた人員と予算について、様々な工夫を凝らして有効にこれらを活用し、業務を推進している。 限られた人員で健全な運営を心掛けていることはよく理解できる。技術相談および現地指導の件数も維持あるいは増加しており、現在の人員では事業を継続するだけでも容易ではないかもしれない。研究室間、グループ間の連携を十分に取り、増減する要望等に対応していただきたい。 特定財源の確実な確保と研究業務のバランスをとっていることは評価に値する。畜産物の販売収入が源となり、自助努力での事業経費を賄っていることは大切なことである。 しかし、試験研究費および事業費における一般財源充当額は906千円であり、0.4%にとどまっていることについて、あまりにも少なく、本当の試験研究が出来るのか？試験研究費や事業費の財源を特定財源に依存しすぎており、基盤が非常に脆弱である。 今後も国や企業等と連携した共同研究に積極的に取り組んでいただきたい。 広大な面積の施設管理のために、外部業者等への委託を行うべきだと思う。 「まきばの館」については、プロのレストラン経営者などに協力していただき、遠方からでも足を運びたいような経営戦略が必要である。近隣に例のない施設なので、その良さを生かせるような組織体制と人員配置も必要ではないか。 					
3 施設・設備等	非常に優れている 人	優れている 人	妥当 4人	見直しが必要 2人	全面的見直しが必要 人
<p>助言、指摘事項等</p> <ol style="list-style-type: none"> 老朽化が進んでいるということだが、経費がかさむ施設・設備等の更新や修繕及び施設等の整備については、特電事業や産廃税の活用により適切に対応しているようだが、充分に行えているか疑問である。修繕及び改修を計画的に行っていただきたい。将来的にどうするかを決めて再編等行うことも必要ではないか。 養鶏施設は家畜疾病発生時の防疫資材の保管庫として活用されているそうであるが、本来の目的とはズレが生じているように思われる。他の有効活用方法も検討頂きたい。 研究所と県民（生産者と消費者）をつなぐための「まきばの館」を活かし切れていないのではないか。生産者の努力や苦勞、喜び等を消費者に伝える場所・消費者が買いたくなるおかやまの畜産物を紹介し提供する場所としての役割ももっているのではないか。まきばの館に行かなくては手に入らないような畜産物を創出して消費者への橋渡しをするような施設にしていきたい。 					
4 研究成果	非常に優れている 1人	優れている 3人	妥当 2人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
<p>助言、指摘事項等</p>					

1. 限られた研究資源（ヒト、カネ、施設・設備）を有効活用し、畜産農家の経営安定に資する事業および研究を進め、着実に研究成果をあげている。
2. 歴代過去最高の肉質成績をもつ美恵茂号などを選抜し、精液を県内に配布することで岡山県産和牛の高品質化に貢献してきたことは評価に値する。
3. 和牛凍結精液の供給本数の増加は喜ばしいことである。美恵茂号には期待する。
4. 優良種畜等の供給事業は、畜産研究所が岡山県の産業振興に不可欠の存在であることを示している。岡山県産和牛の肉質・肉量の改良結果などの研究成果を消費者に上手くアピールしていただきたい。
5. 県民の畜産に関する知識は非常に限られていると感じるため、積極的にアピールが必要である。
6. 各研究の計画から成果に到るまでの過程は非常に評価できる（PDCAが出来ている）。また成果についても特筆すべき内容が散見される。ただ、研究成果がそのまま活用されずに普及までに到っていない状況も多々あるため、今後は迅速に成果を生産現場に普及していただきたい。
7. 今後の酪農分野は、多頭化にある。県内酪農家の更なる牛群改良にも貢献して頂きたい。

5 技術相談・指導、普及業務、行政検査、依頼試験、情報提供等の実施状況	非常に優れている 人	優れている 2人	妥当 3人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 人
-------------------------------------	---------------	-------------	----------	--------------	----------------

- 助言、指摘事項等**
1. 研究業務と両立しながら、毎年、相当数の技術相談・指導、普及業務、情報提供等に対応している。
 2. 技術相談等、県内畜産農家において研究所への相談の優先順位はどのあたりであろうか。もう少し、アピールをして生産農家のよろず相談的役割も担っては如何か。
 3. 情報提供については様々な媒体を活用して、随時発信している事は評価できる。
 4. 今後は、SNSやマスコミの活用をより強化するとともに、「この研究は将来どのように役立つか」を具体的にわかりやすく発信できれば、消費者の目にとまりやすいと考えられる。末端まで浸透させるまでが大切なので、頑張ってください。
 5. 畜産専門家や関係者への情報発信は行われているが消費者に向けての情報提供という部分はもっと推進すればよい。

6 人材育成	非常に優れている 人	優れている 2人	妥当 3人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 人
--------	---------------	-------------	----------	--------------	----------------

- 助言、指摘事項等**
1. 農大、酪大、農業高校の学生指導、新規就農者への技術指導と各種の研修会・セミナー（年間206件、R1年度）への参加を巧みに両立している。
 2. 他の畜産関連機関もスタッフ不足は現実なので、講師派遣は重要なファクターであり、今後も協力していただきたい。
 3. 視察見学として受け入れるのは防疫面から労苦が多いと思われるが、公設試としてできるだけ受け入れを継続していただきたい。
 4. 技術のみを育成するだけではなく、コミュニケーション能力も開発していく必要がある
 5. 民間との人事交流も行いながら、より高度な研究を行える人材育成もあっても良いと考える。
 6. 高校生へのアプローチについては、研修や講習というより、畜産や酪農家を目指して勉強している大学生との交流や、作業体験を数回実施するなど、共感が生まれるような場づくり、関係づくりをぜひ取り入れていただきたい。

7 他機関との連携	非常に優れている 人	優れている 1人	妥当 4人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 人
-----------	---------------	-------------	----------	--------------	----------------

- 助言、指摘事項等**
1. 多くの機関と連携あるいは共同研究を行っており、良好なネットワークを構築していると判断できる。
 2. 農業、畜産に直接関係しない産業が受託研究を望むことは少なからずあり、産業振興課等との連携を強化するなどしていただきたい。もっと民間企業等との連携も模索されてはどうか。
 3. 消費行動につなげるため、中長期的な見通しを持つべくJA・学校関係・消費者組織などと継続的な意見交換が行える機会が必要ではないか。

8 県民・地域への貢献	非常に優れている 人	優れている 3人	妥当 2人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 人
-------------	---------------	-------------	----------	--------------	----------------

- 助言、指摘事項等**

1. 新聞記事、HP掲載、研修・セミナーの講師、各種イベントの主催視察見学の受け入れ（1,797名）、「まきばの館」を活用した情報発信（61千人）など広範な分野での貢献は評価に値する。
2. まきばの館を活用し、食育を含めた啓発・普及活動に熱心に取り組んでいる。
3. まきばの館等を活用したイベントをもっと行い、畜産研究所並びに岡山県の畜産をもっとアピールしてもらいたい。
4. まきばの館は広い敷地を有し、屋外でもいろいろと楽しめる施設なので親子や、グループでも気軽に行けるよう、県の情報誌でのアピールや、標識や看板の整備などしてはどうか。
5. 研究成果や技術情報を情報発信し、食育活動～消費活動へつながるように、県民へのアピールを地道に続けていただきたい。

9 前回指摘事項への対応	非常に優れている 人	優れている 2人	妥当 4人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
--------------	---------------	-------------	----------	-------------	----------------

助言、指摘事項等

1. 厳しい状況を反映し、対応が難しい指摘も散見されるが、指摘に事項に対し、丁寧かつ誠実に対応していることが理解できる。
2. 受託研究費が増増するという事は考えにくく、特電事業や産廃税を活用するなどによって対応するというのは現実的であろう。
3. 前回指摘事項には対応しているようであるが、根本的には今回も同様であるように感じる。新たなことにチャレンジしては？

総合評価	非常に優れている 人	優れている 3人	妥当 2人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 人
------	---------------	-------------	----------	--------------	----------------

助言、指摘事項等

1. 厳しい状況下において、限られた資源を有効活用し、県民ニーズを踏まえた研究・事業に加え、県民に対する技術相談・指導、普及業務、情報提供、見学対応等、さらには、人材育成に努め、一定の成果をあげていることは評価に値する。
2. 人員が増えないが業務は増大するという状況が続いていると思われるが、成果を着実に積み上げて産業振興に貢献していると評価できる。生産者から評価されることは消費者から評価される以上に重要であり、生産者との繋がりを一層強固にしていきたい。
3. 研究成果が出た後は、迅速に消費者や生産者にフィードバックしていただきたい。また、研究者自身がニーズを作っていく気持ちをもって研究にあたっていただきたい。研究所においてもそういった雰囲気作りをして欲しい。
4. 総合的には妥当と考える。しかし、施設の老朽化も進む中、予算は限られ十分な研究が行えているのか非常に不安である。
5. 今後の運営も視野に入れた長期計画の策定が必要だと思う。
6. 専門的な研究については、生産者、大学、民間企業等と良好な連携がはかれていると思えるが、これだけの研究成果や畜産業界への貢献度が、県民に伝わっていない。岡山県の畜産物を選択し消費することが、くらしや環境や経済にどう影響していくのか、そういったことを常に意識しつつ、更なる消費につながるための研究、連携に力を入れてもらいたい。